

長崎県ケアラー支援シンポジウム2024～ひとりにしない、社会で支えるケアラー支援～

【1】開催概要

開催日時：2024年11月16日（土）13：30～16：00
場所：長崎県庁1階大会議室 ※オンライン配信、アーカイブ配信（1か月間）も実施
開催目的：ケアラーが援助を受ける人とともに、安心して人生を送ることができる地域共生社会の実現を目指し開催。
参加者数：会場参加 約50名
オンライン配信・アーカイブ配信の総視聴回数 約310回

【2】基調講演

「ケアラー支援の現状～ケアラーを孤立させないために～」

一般社団法人 日本ケアラー連盟 代表理事

NPO法人 介護者サポートネットワークセンター・アラジン 理事長 牧野 史子 氏

ご自身の経験をもとに、ケアラーやケアラー支援について理解し、身近な地域で支援するために、どんなことができるかを考えるきっかけとなるご講演をいただきました。

- ①ケアラー支援はなぜ必要か
・・・多様なケアラーの存在と社会課題、ケアラーの孤立の先にあるもの
- ②ヤングケアラーの理解と支援
・・・なぜヤングケアラーは見過ごされてしまうのか、ヤングケアラーを取り巻く資源
- ③ケアラーを孤立させないための地域資源の取り組み
・・・孤立したケアラーを地域へつなぐ仕組み

<参加者の声>

- ・長きに渡り支援する中で見てこられた支援の実際や課題発見等、具体的な事例を交えての話が多く、とても分かりやすく参考になりました。
- ・支援が終了したあともケアラーの人生は続くという、ごく自然なことを考えたとき、ケアラーにフォーカスをあてるということがどれほど大切で、一人の人として敬意をもって関わる基本的な姿勢、視点を学ばせていただきました。

11月は長崎県ケアラー支援月間です

長崎県ケアラー支援シンポジウム2024

ひとりにしない、 社会で支える ケアラー支援

ケアラーが援助を受ける人とともに、安心して人生を送ることができる地域共生社会の実現を目指し、ケアラー支援について一緒に考えてみませんか。

●日時：2024年11月16日（土）13：30～16：00

●場所：長崎県庁1階大会議室（長崎市尾上町3番1号）

※基調講演のみライブ配信を行います。

基調講演

「ケアラー支援の現状 ～ケアラーを孤立させないために～」

一般社団法人 日本ケアラー連盟 代表理事
NPO法人 介護者サポートネットワークセンター・アラジン 理事長 牧野 史子 氏

セミナーA

「地域でつながる ～民間ケアラー支援団体の活動～」

長崎シングル介護を考える会 世話人
毛利 真紀 氏
あいネットつしま 代表
脇山 武士 氏

セミナーB

「子どもの未来を支えるために ～ヤングケアラーへの理解と支援～」

長崎国際大学 人間社会学部 社会福祉学科 准教授
梅野 潤子 氏
ケアラーサポート窓口 コンシェルジュ
Kotaro 氏

●詳細やお申込み方法は、裏面をご覧ください。



長崎県ケアラー支援シンポジウム～ひとりにしない、社会で支えるケアラー支援～

【3】セミナー

A「地域でつながる～民間ケアラー支援団体の活動～」

県内でケアラー支援に携わる2つの団体に、活動内容や取組の現状、感じていることなどをお話し頂き、ケアラー支援の大切さについて理解を深めました。

<登壇者>

長崎シングル介護を考える会 毛利 真紀 氏

あいネットつしま 脇山 武士 氏

<参加者の声>

- ・民間支援団体について、知らずに勉強不足を感じました。紹介しようと思います。自分がまず参加するか検討します。

B「子どもの未来を支えるために～ヤングケアラーへの理解と支援～」

ヤングケアラーと呼ばれる方々が抱える日々の負担や悩みを正しく理解し、共感を深めるとともに、支援の手が届きにくい現状を知り、どのようにサポートできるかを当事者の経験談を踏まえて学びました。

<登壇者>

ケアラーサポート悠々 コンシェルジュ Kotaro 氏

長崎国際大学 人間社会学部 社会福祉学科 准教授 梅野 潤子 氏

<参加者の声>

- ・当事者のリアルな声とヤングケアラーのこれまでとこれからについて、考えることのできる大変充実した時間となりました。
- ・Kotaroさんの実体験をもとに、ヤングケアラーの立場からみえる制度の穴になる点や、不足している社会資源、当事者への理解不足等を感じ、まだまだ整備が必要な事業であると改めて感じました。

【4】参加者の声（全体）>

ケアラー支援を進めるために必要なこと

- ・ケアラー支援団体の活動を知り、横に展開していくこと。
- ・多面的視点を持ち様々な機関で連携しながら支援をしていくことが大切。アウトリーチしながら早期発見するためのかわりが必要だと思いました。
- ・ケアラー、ヤングケアラー、ケアラー支援等の「ワード」をメディア、SNS等で積極的に発信して、まず「言葉」から浸透させる。そうすると、自ずと知識習得への動きが起こると思います。知識が深まったところで大型イベントでリアルに触れてもらう。支援人口増の手段と思います。
- ・ワンストップ相談窓口。ケアラーズカフェ。
- ・ヤングケアラーは、学校が情報をキャッチすることが多く、その情報をどのように関係機関と連携を図っていくのか先生方に共有をしていく必要がある。

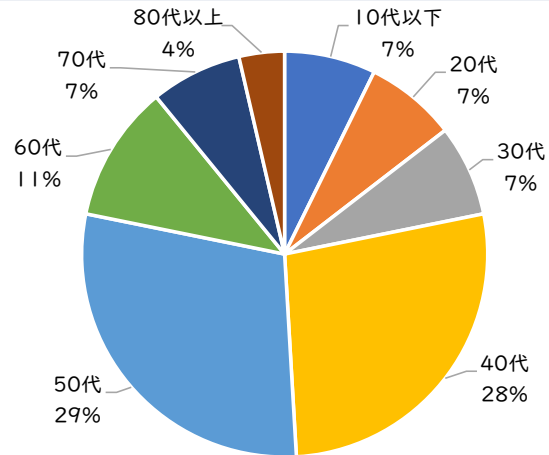
全体を通しての感想やご意見

- ・介護を必要としている人ではなく、介護をしている人（ケアラー）の視点で見ることの大切さを学びました。
- ・相談は出来ても調整までしてくれたり、次に繋げてくれるといった仕組みについて大変重要ことだと思いました。繋がるべきところに誘導し、相談ができたり、支援が行き届く仕組みをどうぞよろしく願います。また、中心部だけでなく過疎地域にも支援が行き届くことを期待しております。
- ・今回のようなイベントが身近な生活の中であれば、もっと子供たちが参加しやすいような形で企画すれば、もっとケアラーについて社会全体で理解が深まると思う。
- ・オンラインでも視聴出来たので、あらゆる人が聞けたのではないかと思います。条例の進捗を時々取り上げていただき、さらに推進されることを願っています。
- ・セミナーを分けていただいたことで、参加しやすかったです。

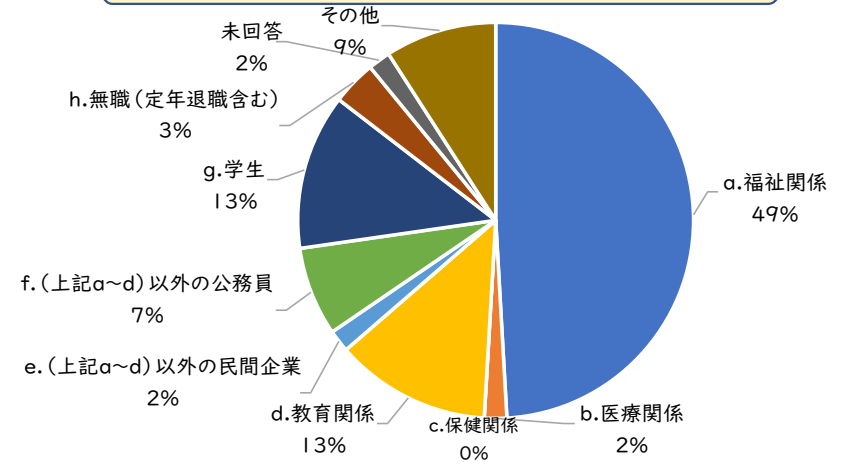
長崎県ケアラー支援シンポジウム2024～ひとりにしない、社会で支えるケアラー支援～

【5】参加状況（アンケート回答より）

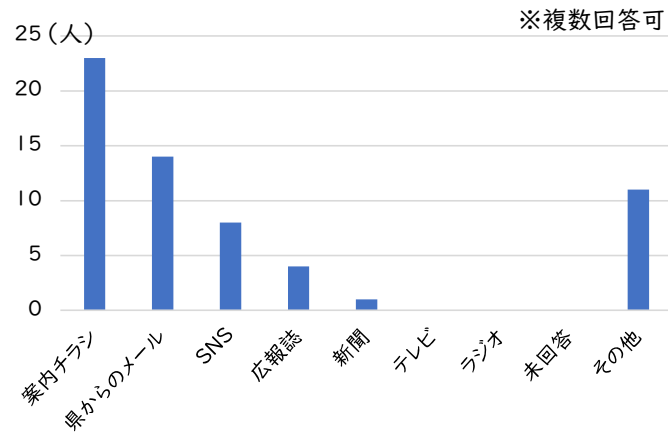
来場者、視聴者の年代



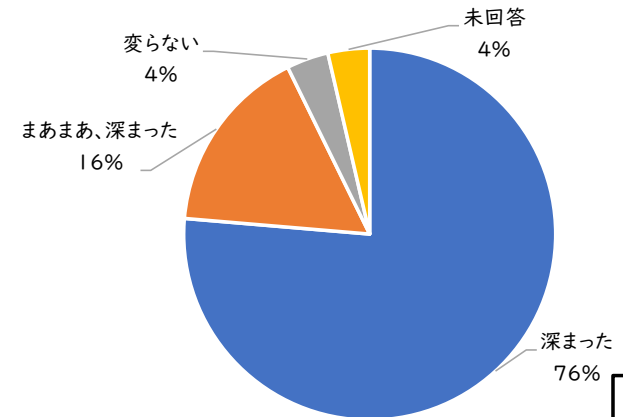
来場者、視聴者の職種



シンポジウムを知ったきっかけ



ケアラー支援への理解



※回答者数：55名